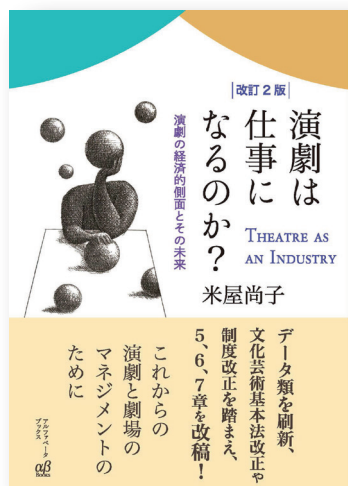


【改訂2版】演劇は仕事になるのか？

演劇の経済的側面とその未来

米屋 尚子 著 定価：本体 2700 円 + 税 A5 判並製・284 頁



これからの演劇と劇場のマネジメントのために

演劇で食っていこうじゃないか、はたして食えるのか？…演劇・劇団をとりまく経済的側面とその未来について、経済的側面に焦点を当て、演劇と社会の関係を見直しつつ、演劇の成立のさせ方を考え直す。

2016年に刊行され、演劇本としては異例のロングセラーを記録した『【改訂新版】演劇は仕事になるのか？』の待望の改訂2版が、データ類を刷新、文化芸術基本法改正や制度改正を踏まえ、五、六、七章を改稿して新たに刊行!!

《目次》

- 第一章 演劇のいま～日本の「劇団」は何を成してきたのでしょうか？……日本に劇団はいくつあるのですか？／芸術活動は事業ですか？／劇団が法人格を持つ意味／俳優ではどうしても食えない？／食える演劇、食えない演劇／事業のパターンと公演場所／商業劇場のオープンとプロデュース公演
- 第二章 劇場って何でしょう？……劇場を劇場たらしめるものとは？／芝居小屋・劇場・公立ホール／公立文化施設は劇場ですか？
- 第三章 芸術と公共政策との関係……そもそも、なぜ芸術に公的助成が必要なのでしょう？／日本にやってきた「アーツ・マネジメント」とは？
- 第四章 隣の芝生、自分の庭……「たしなむ」文化／「日本の伝統」というステレオタイプ／アマチュア文化のすごい国／「八方美人」の公立文化施設
- 第五章 劇場法施行後の劇場と地域……どのような観客を増やすのか／各地に公共劇場の整備を——劇場法の成立／劇場法と劇場支援策／地域主体じゃないと意味がない／演劇ファンを増やす、その先に／実演芸術の振興と学校教育／コミュニケーション教育の拠点？／東京オリンピックと文化政策の変化
- 第六章 文化政策が変わり始めた……文化芸術基本法への改正がもたらしたもの／ポスト・コロナ、ウィズ・コロナの基盤づくりへ
- 第七章 どう変わるか、演劇のこれから……公共劇場のプログラムの充実と就労環境／演劇がもたらす価値と経済／演劇をめぐる循環とその支え方

【著者プロフィール】

米屋 尚子（ヨネヤ ナオコ）

1960年富山県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。外資系銀行勤務を経て、1986年～88年、白水社『新劇』編集部。フリーの演劇ジャーナリストなどを経て、91～93年、英国シティ大学大学院・芸術政策運営学科に留学（Postgraduate Diploma in Arts Administration, MA in Arts Criticism 修了）。93年、慶應義塾大学アートセンター立ち上げに携わった後、94～95年、米国コロンビア大学大学院（Teachers College）に芸術文化研究所客員研究員として留学。96年から2020年まで日本芸能実演家団体協議会に勤務。舞台芸術に関する調査研究、政策提言、研修事業などに携わった。2023年5月より、独立行政法人日本芸術文化振興会・基金部の文化施設担当プログラム・オフィサー。

ご注文 FAX→03-3239-1851（返品フリー入帳）

※「一冊！取引所」からもご注文いただけます!!

アルファベータブックス	●番線印	●冊数	【改訂2版】演劇は仕事になるのか？ 米屋 尚子 著 ●定価本体 2,700 円 + 税 【予価】 ISBN 978-4-86598-115-5 C0074	●ご担当者様
				●ご注文日